

聞ノミ、提重宮ニ食類ヲ納レ賣歩行ルヲ矯ケテ賣色セシ也、

〔教令類纂 初集七十九〕寶永二乙酉年九月

一從前々相觸候處、頃日猥ニ町中端々に奉公人となぞらへ、又綿摘杯と名付遊女差置候者、數多有之由相聞不届候、依之與力同心相廻シ可遂穿鑿候間、名主五人組急度致吟味、左様之族於有之は、早速可訴出之、若隱置外より顯におひては、女差置候者は不及申、家主五人組罪科に行ひ、名主は可爲越度候條、急度町々へ可相觸者也、

九月○中略

寶永五戊子年十月

一町中ニばいた差置間敷旨度々相觸候處、今以奉公人綿摘杯と名付、遊女差置候者有之由相聞不届候、人を廻し相改、賣女隱置候者有之候ハ、詮議之上當人不及申、家主五人組名主迄、其科ニ隨ひ曲事ニ可申付候條、此旨町中可相觸者也、

十月

寶永六己丑年六月

一町中ニ遊女を綿摘杯と名付隱置候儀、前々々停止之旨申付候處、頃日猥ニ賣女杯差置候之様相聞不届候、人を廻し相改、左様之もの有之ば、家主五人組迄曲事可申付候條、此旨町中急度可相觸候、以上、

六月

〔物類稱呼一倫〕夜發やほち、和名 京大坂にてそ。うかといふ、いにしへ辻君、立君などいへるものえり、江戸にてよたかといふ、紀州にて幻妻といふ、長崎にてはいはちと云、四國にてけんたんといふ、間短と大坂及尾州にて、人の妻をげんさいと云、是は罵る詞に用ゆと見えたり、春秋左氏傳、